

2010



報 告 書

2010年9月

きらめき未来塾事務局

目 次

1. 理事長挨拶（理事長 齋藤洋一）	2
2. 高校生のための2010年きらめき未来塾を開催して（名誉塾長 大竹美喜）	3
3. 発起人代表謝辞（発起人代表 大石正守）	4
4. 概 要	5-6
5. 塾生参加状況	7
6. カリキュラム	8
7. 講師紹介	9
8. 2010 きらめき未来塾 講師インタビュー	10-13
9. 活 動 報 告	
(1) 講義について	14
(2) 野外学習について（白川郷・天体観測・飛騨市内見学）	15-16
(3) パネルディスカッションについて	17-18
(4) チームミーティングについて	19-20
(5) レクリエーション（バスク・合唱・キャンプファイヤー・BBQ）について	21-23
10. 塾生の感想（「未来塾振り返りシートより」）	24
11. 事務局活動報告	25
12. 事務局総括～反省と来年に向けて	26-27
13. ご協賛・ご協力いただいた法人・団体・個人	28
14-1. 後援・理事	29
14-2. スタッフ名簿	30
15. プレスリリース	31-32

1. お礼とご報告

きらめき未来塾 2010 は、特定非営利活動法人となつてからは、第 1 回、従来の任意団体でのスタートからは第 6 回目となりますイベントを平成 22 年 8 月 2 日から 6 日までの 4 泊 5 日の日程で「みどり豊かな、こまやかな人情、そして伝統芸能のあるまち」といわれている岐阜県飛騨市にある友雪館を中心として行われました。

開催にあたっては日本の将来の希望を若者に託し、日本を支えるリーダーを育てるという開催趣旨を基軸として、

- (1) 自らを知り、その能力を發揮できる未来を描く高い志
- (2) 世界の中で活躍して行く国際感覚
- (3) 長年多くの人の英知で築き上げられた伝統の強みを活かすことの出来る歴史感覚
- (4) 夢の成就のため自らの努力を重ねられる実行力

などを課題とした人間形成の場を提供することを基調としてカリキュラム編成にあたりました。この目標達成にご賛同いただいた法曹、文化、スポーツ、医療、経済界の第一線でご活躍されている方々に講師をご依頼し、含蓄のある情熱あふれる御講義をいただきました。またリーダーとして必須条件でもある自分の考えを率直に表現し、さらにはコミュニケーション能力を高めるために各講義の後には、講義内容を題材にした討論、ミーティング時間を設け、人間としての思案のプロセス、収斂の仕方、他との協調の取り方などの機会も設けました。

国際感覚の養成は最も困難なフィールドでありましたが、多年のご経験のある小松としる講師の英語の基礎である phonics を教えていただき世界への門戸が広がったと思えました。また名古屋アメリカンセンター館長、名古屋米国領事館領事である Stephen・S・Wheeler 氏による米国高校生と対比した高校生活を題材とした会話教室では時間が過ぎても講師は塾生の虜となっております。

今年は全日本バレーボールチームの監督を務めた柳本晶一氏と北京オリンピック銅メダリストの朝原宣治氏に勝負時の精神力の統制、また努力の持続についての講義に加え実技指導があり未来への充実した人生の送り方について大きなインパクトを与えていただけた様です。

そのほか大川哲次弁護士の大人の社会の仕組、高久晃前富山医科薬科大学学長の生命の尊さ、下垣真希ソプラノ歌手の平和への願い、いずれもご両親、ご家族の皆様を交えて家族内での話題として交わされる機会があれば日本の将来も磐石であろうと考えております。

この様な素晴らしい機会が得られましたことには多くの方々の善意でもって支えていただいたものと心から深く感謝申し上げます。

まず、地元井上久則市長様を始め飛騨市役所、市議会、教育委員会の方々細やかな運営についてご配慮いただき、資金面ではこの趣旨にご賛同いただいた個人会員、法人会員の皆様の浄財をいただき、また社会奉仕、青少年育成をこの場で実践していただいた大阪大淀ロータリークラブの皆様、さらにご多忙なところご協力いただいた講師の方々、チームとして行動出来るようにと親身になってお世話いただいたサポーターの皆様、一年かけて準備し、当日の円滑な運営に携わった事務局の皆様方、これらが一つ欠けても今回の成果は得られなかったと思ひ、皆様方に心から感謝の意を表したいと存じます。

10 年、20 年後ここで学んだ塾生の皆様様が日本のリーダーとして活躍される時、日本は活力のある明るい国になっていることを確信しております。

解散の折、塾生の一人が呟いた「5 日前は赤の他人で集まった私達が、どうしてここで別れることがこの様に辛いのだろう」と知恵を付けるだけでなく心をゆさぶることの出来たこの事業に引き続き深いご支援とご協力を関係者一同を代表してお願い申し上げます。

特定非営利活動法人きらめき未来塾
理事長 齋藤 洋一

2. 高校生のための2010きらめき未来塾を開催して

2005年、「広い視野を持ち、大きな構想力と情熱によって、日本社会に貢献できる人材を育てたい」という、高い志のもと広島で産声をあげた「未来塾」。翌年、この志を同じくする「近畿未来塾」が発足。

そしてこの「未来塾」の志、想いを受け継ぎ、より磐石な運営基盤、組織とするため2009年、NPO法人「きらめき未来塾」を設立いたしました。

新生「きらめき未来塾」は、本年8月2日～8月6日までの5日間、岐阜県飛騨市に近畿地区、広島、関東から59人の高校生が参加し開催いたしました。

未来塾では、リーダーの要件の一つとして「人間力」を掲げています。そこで本年は、開催地の地域特色を活かし、文化、自然を通じて「人間力」を養うカリキュラムを構成し、岐阜県が誇る世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の見学が実現できたことは、塾生にとって将来に向けて大きな収穫となったのではないかと思います。

何故なら、リーダー、そして国際人として活躍するには、自分は何ものであるか。日本人とは何か。また日本人であることを強く認識することが大切だからです。でなければ日本を正しく導くことはできません。自国の文化を知ってこそ、相手の文化、習慣が理解できるのです。

これを理解させてくれるのが、日本が世界に誇る文化です。古代より受け継がれた日本人のDNA、慣習、習慣、そして知恵や発想が形となり、見えるもの、表現されたものが文化です。私たち日本人に連綿として受け継がれてきたものを、私たちは次世代に残すという大きな役割も担っています。

そのためには、比類なき世界に誇る文化を「文化力」として発信していくことであり、これからのリーダーに課せられた大きな仕事となります。

リーダーとなるためには何が必要かを考え、また一人ひとりが自分の「目標」や「夢」を持ち、それを実現する道筋を「気づき」「発見」する場が未来塾です。世界で活躍する社会人講師の講義やグループディスカッション、グループワークを通じ、将来の人生設計をするためのヒントを得たものと思います。

最終日の皆さんの顔つきは、夢と希望にあふれ、充実感がみなぎっていました。5日間という短い期間でしたが、講師の方々や仲間から刺激とアドバイスを受け、「新しい自分」と出会い、人生の目標を定めるための一歩を固めることができたのではないかと思います。

今回、未来塾に参加された高校生の皆さんには、社会を少しでもよくしよう、人の役にたちたいと思い、他の人がするのを待っているのではなく、「人がやらないなら、私がやる」と自ら動き出し、コンパッション(情熱とひたむきさ)と冷静なプランニングによって活動していった欲しいと思います。

そして、「使命感」を持って、「勇気」を持って、「好きと思えること」を決して諦めることなく挑戦し続けていきたいと思います。

夢の実現に向けて—Never Give In!—自分との戦いに勝利する。

本年度の未来塾は、飛騨市の全面的なご協力、ご支援のもと開催することができましたことに、改めてお礼申し上げます。地域の特異性を見出し、地元と一体となって取り組むことは、地方自治、地域活性化に向けたヒントになったのではないのでしょうか。参加した高校生にとっても、改めて自分が住む地域との比較、他の地域の現状を認識することで、日本の将来のあり方について考える機会になったものと思われまます。

今の世界は一言でいえば、フラット化の方向にあります。つまり、言語、教育、科学、ビジネスが一体化していく、これが10年、20年、100年先、世界そのものが1つとなり、国境という垣根がなくなる。

こうした時代を迎えたとき、ニッポン・日本人は、グローバル化された社会の中で活躍するためには、全世界でお互いを理解し、相通ずるコミュニケーション能力を持つことが不可欠となります。

ですから、今のうちから心の中に「地球儀」をもち、そうした力を養っていただきたいと思います。そして是非とも日本、さらには世界の次世代をリードするという気概を持ち、未来塾で学んだことを大きな財産として努力を続け、新たな未来を拓いていただきたいと思います。近い将来、日本のリーダーとして活躍されることを期待いたします。

最後になりましたが、「きらめき未来塾」開催にあたり、飛騨市をはじめ、多くの企業団体、個人の皆様からご賛同、ご支援、ご協力を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。お陰様で成功裡に終了いたしましたことをご報告申し上げますとともに、さらなる発展を目指す「きらめき未来塾」にご期待いただければ幸いです。

特定非営利活動法人きらめき未来塾
名誉塾長 大竹 美喜

3. 発起人代表挨拶

きらめき未来塾2010は、8月2日から6日までの4泊5日の日程で、岐阜県飛騨市で開催しました。過去1回は、広島未来塾として、4回は近畿未来塾として大阪府四条畷市、山梨県韮崎市、そして兵庫県篠山市で2回実施してきました。

今回の飛騨市での開催は、研修施設が山間にあったこともあり、素晴らしい緑豊かな自然環境の中にあり、星空観察や、日本の原風景・心のふるさとである、白川郷見学等、飛騨ならではの野外活動を多く取り入れました。

カリキュラムは、医療、法曹、スポーツ、文化、経済界等々の各界で第一人者として活躍されている方々を講師として招き、講義をしていただきました。そして、前年度から取り入れている「英語力」については、国際的に活躍されている、小松としる先生、名古屋のアメリカ領事館 領事・名古屋アメリカンセンター館長のスティーブン・S・ウィラー氏の講義で、塾生は日本の将来のグローバルな展開において英語力、英会話の必要性、重要性について大きな刺激を受けたと思います。

また、大学生サポーターによるパネルディスカッションでは、パネラー達が自分の高校時代の悩み、挫折、夢、進路をテーマに話をしました。自分達に身近な先輩の話は、共感する塾生も多く、沢山の質疑応答があり、全塾生が真剣に考えたカリキュラムとなりました。

きらめき未来塾の開塾趣旨は、日本の将来を担うリーダーシップのある人材育成にあります。

リーダーになるためには、自分の性格等、自らのことをよく知悉した上で、一刻も早く、自分の夢、目標をもつことです。

いま自分の将来について具体的に考えるのは難しいことと思いますが、勉強というものは、親にいわれてするものではなく、新しい知識を学ぶことが楽しくなれば、自分から進んでやるものです。

目標がはっきりすると、自分から勉強する気になれるのです。

その意味では、たとえそれが淡い夢や希望の程度であっても、自分が目指す目標に向かって頑張るのです。

私が、塾生の皆さんにかける夢は、皆さんがしっかりした自立心を持ち、語学をしっかり勉強して、国際的に広い視野と開かれた心を持った国際人になってもらいたいということです。

そして、国内での活躍のみならず、どしどし海外に出掛けて、この広い地球のどこかで国際社会に貢献するために、自分の能力をフルに発揮できる人になってほしいと思っています。

昨年の3月、オワンクラゲの蛍光物質からヒントを得て、緑色蛍光たんぱく質を発見し、ノーベル化学賞を受賞された、下村脩さんは、ある講演会のパネルディスカッションで、

「研究の成果が出ず、行き詰った時どうすれば良いですか」という質問に対し、「がんばれ、がんばれ、つべこべ言わずに努力をなさい」と答えたそうです。

「すぐにあきらめたり、ほかのことに気が移ってしまったりするのは、それはそのことが本当にやりたかったことにならないのではないだろうか。」

「日本の若い人たちに重ねていいたい。がんばれ、がんばれ。物事を簡単にあきらめてはだめだ。」
と言っておられます。

塾生の皆さんは、この塾で学んだことを糧にし、夢、希望を胸に、自分の足で確かな一歩を歩んでほしいと思います。

最後になりましたが、素晴らしい自然環境の中で4泊5日の有意義な塾を開催できましたことは、講師の先生方、ご協賛賜りました多くの法人、個人の皆様のお陰です。

とりわけ、研修会場で設営準備、宿舎や野外研修等々で、飛騨市長様はじめ市職員の皆様に多大なるご尽力を賜りました。ありがとうございました。

また、塾生をボランティアでサポートして頂いた社会人、大学生15名の皆様に感謝申し上げます。

特定非営利活動法人きらめき未来塾2010の活動状況につきましては、産経新聞社、中日新聞社、岐阜新聞社、スポーツニッポン新聞社、保険毎日新聞社等の各誌に大きく報道され、またTV局(TBS)から取材があり放映されましたように各方面で高い評価を頂きました。

来年も皆々様のご協力を得ながら今回の未来塾に改良を加え、より充実させ塾生に感動と感激を与える内容にするため、鋭意努力したいと思います。

引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人きらめき未来塾
発起人代表 大石 正守

4 概要

(1) 開催日程 2010年8月2日(月)～8月6日(金)

(2) 開催施設 友雪館(研修会場)



〒509-4312

岐阜県飛騨市河合町稲越 2876 番地の 1

TEL 0577-65-2323 (代表) FAX 0577-65-2323

アクセス

- (1) JR飛騨古川駅からバスで
- (2) 東海北陸自動車道飛騨清見ICから車で
- (3) 北陸自動車道富山ICから車で

(宿泊施設)

クリエートセンター 岐阜県飛騨市河合町稲越 2809-1

やまびこ館 岐阜県飛騨市河合町稲越 1631

アスク山王 岐阜県飛騨市河合町稲越 1631

(3) 対 象 高校生

大阪府	15名	兵庫県	13名	京都府	14名	東京都	1名		
神奈川県	1名	千葉県	2名	岐阜県	1名	広島県	12名	合計	59名

(4) カリキュラム

講義	法曹、医療、スポーツ、芸術、様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英語	国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、外国人講師の話す「生の英語」を聴くことで、英語への興味や英語力向上への意欲を持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	与えられた課題をもとに、チーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともにリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話かけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
野外学習	自然の中で活動を行うことによって、豊かな感受性と、自ら考え学ぶ力を身につける。また、集団の中でリーダーとして必要な自主・自立の精神、行動力を養う。今回は、世界遺産のひとつである白川郷の見学を通し日本人の生活の原点に目を向けるきっかけを設けた。また、天体観測や飛騨古川まつり会館の見学を通し、地域の自然・文化・伝統に対する認識を深める場とした。
発表会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

※ 塾生は8人程度に組分けして、チームでの活動を基本とする。

(5) サポーターについて

今年は、社会人10名、大学生5名に協力して頂いた。サポーターが全員、協力し合い、自分から進んで積極的に動いてくれたことで、スムーズな運営が出来た。

サポーターの役割

① 塾生の合宿生活、学習のサポート

2人で組になり1つのチームを担当し、学習、活動、合宿生活全般のサポートを行う。また、身近な先輩として、塾生が夢を持ち目標をつくるためのアドバイスをを行う。

② 運営のサポート

カリキュラムを円滑に進めるため、事務局スタッフとして活動をする。時間ごとに役割を決め、全員が①と②を行う。

③ 音楽、レクリエーション指導

専門分野のサポーターが担当をする。朝の体操やキャンプファイヤー時のレクリエーションの企画、進行、合唱の指導等。塾生同士の融和協調や友情、絆を育むことを目的とする。

5. 参加塾生の概要

学年	男	女	小計
1	12	12	24
2	10	10	20
3	8	7	15
合計	30	29	59

No.	学校名	男	女	合計
1	国立大阪教育大学附属		1	1
2	大阪府立生野	1		1
3	大阪府立茨木		2	2
4	大阪府立香里丘		1	1
5	大阪府立佐野	1	2	3
6	大阪府立東百舌鳥		2	2
7	大阪府立牧野	1		1
8	私立関西学院千里国際		2	2
9	私立梅花		2	2
大阪 9校		小計	3	12
10	兵庫県立伊丹北		2	2
11	兵庫県立加古川南		1	1
12	兵庫県立香寺	1		1
13	兵庫県立松陽	2		2
14	兵庫県立太子	1		1
15	兵庫県立豊岡	1		1
16	兵庫県立播磨農業	1	1	2
17	兵庫県立東灘		1	1
18	私立啓明学院	1	1	2
兵庫 9校		小計	7	6
19	京都府立桂		2	2
20	京都府立園部	1	1	2
21	京都府立東稜		1	1
22	京都府立西乙訓	1	1	2
23	京都府立西舞鶴	1		1
24	京都府立福知山	2		2
25	京都府立北稜	1		1
26	私立福知山成美	2		2
27	私立立命館宇治		1	1
京都 9校		小計	8	6
28	私立淑徳		1	1
東京 1校		小計	0	1
29	神奈川県立大和東	1		1
神奈川 1校		小計	1	0
30	私立千葉商科大学付属	1	1	2
千葉 1校		小計	1	1
31	岐阜県立岐阜北	1		1
岐阜 1校		小計	1	0
32	広島県立庄原実業	2		2
33	広島県立広島観音		1	1
34	呉市立呉	2		2
35	私立修道	2		2
36	私立比治山女子		1	1
37	私立広島学院	3		3
38	私立広島国際学院		1	1
広島 7校		小計	9	3
38校		合計	30	29
				59

2010年 きらめき未来塾カリキュラム

		7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	
8/2 (月)	乗務員		8:40 新大阪駅 出発	8:40 新大阪駅 集合	受入準備														
	乗客		8:40 新大阪駅 集合	8:40 新大阪駅 集合	受入準備														
8/2 (月)	サポーター		9:00 新大阪駅 集合	9:00 新大阪駅 集合	乗車中 「コミュニケーションを図る」 前田講師														
	塾生		9:30 新大阪 出発組 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組	9:30 新大阪集合・10:00 出発 飛騨古川 合流組
8/3 (火)	朝食		7:00~ 8:00	8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00			
	移動		8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00				
8/4 (水)	朝食		7:30~ 8:00	8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00			
	移動		8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00				
8/5 (木)	朝食		7:30~ 8:00	8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00			
	移動		8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00				
8/6 (金)	朝食		7:00~ 8:00	8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00			
	移動		8:00 ~9:00	9:00 ~11:00	11:00~ 12:00	12:00 ~13:00	13:00 ~14:45	14:45 ~16:00	16:00 ~17:00	17:00 ~18:00	18:00 ~19:00	19:00 ~20:00	20:00 ~21:00	21:00 ~22:00	22:00 ~23:00				

※常に5分前行動で!

7. 講師紹介

<p>おおたけよしき 大竹美喜</p>	<p>広島県庄原市生まれ。広島農業短期大学(現・県立広島大学)卒業。韓国大邱韓医大学名誉保健学博士授位。 1974年11月 アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)を日本に創業。副社長、社長、会長を経て、2003年 創業者・最高顧問に就任し現在に至る。日本で初めて「がん保険」でスタートした同社を、国内最大級の外資系生保に成長させた。本業のかたわら、教育面では筑波大学経営協議会委員、国連大学協力会評議員、広島大学特別顧問・客員教授、千葉学園理事他、多数の大学で理事等を務め若者の人材育成に注力。また、国際科学振興財団会長、産経新聞社社外取締役をはじめとする諸団体の役員を兼任。東京都社会福祉協議会会長を歴任するなど、国民の豊かな生活に向けてさまざまな提言を行うとともに、ニュービジネスの育成にも尽力している。</p>
<p>よしざわ たけし 吉澤 健</p>	<p>滋賀県大津市生まれ。1962年 滋賀県立膳所高校卒業。1966年 東京大学法学部を卒業し、同年4月 旧自治省入省。1977年 自治省官房文書広報課課長補佐、1984年 大阪府財政課長。その後教育次長、総務部長、副知事、2001年 四国大学経営情報学部教授。2009年より同大学講師。</p>
<p>まえだよしあき 前田嘉昭</p>	<p>大阪市生まれ。東京教育大学卒業。大阪府高等学校教諭、大阪府立阿倍野高校校長を務め退職。大阪教育大学等非常勤講師・(財)日本ラグビーフットボール協会理事・(財)大阪府レクリエーション協会理事・生涯スポーツ社会づくりの推進を目標にボランティア活動。</p>
<p>おおかわてつじ 大川哲次</p>	<p>三重県尾鷲市生まれ。弁護士(大阪弁護士会所属)・よつば法律事務所所長。民事事件や刑事事件などを扱う。刑務所や少年院においてボランティアとして受刑者、少年たちの指導・教育にあたる篤志面接委員を務める。日本市民安全学会理事、大阪被害者支援アドボカシーセンター理事、NPO 法人アクト情報交流副理事長などを務める。弁護士の仕事だけでなく、司法修習生時代から、食文化、自然との出会いを求めて日本・海外の旅を続けており、日本百名山全山登頂を達成した。全国にまんぶく会をつくり全国食べ歩きなども続けている。</p>
<p>こまつとしあき 小松としあき</p>	<p>東京生まれ。商社では秘書として勤務。1987～1990年 米国・カナダに滞在。帰国後、1991年 エデュケア・インターナショナルIncを設立。日米協会評議委員、日米協会プログラム委員、尾崎行雄記念財団評議員。Youth Forum JAPAN評議員。</p>
<p>たかく あきら 髙久 晃</p>	<p>福島県生まれ。東北大学医学部卒業。脳神経外科医。1998年から富山医科薬科大学学長を勤め2009年に退官。2009年1月 福島県外在住功労賞、2009年5月 瑞宝重光章授章。</p>
<p>やなぎもとしょういち 柳本晶一</p>	<p>大阪府生まれ。現役時代のポジションはセッター。大商大附高校時代から実業団までの間には、国体・アジア大会・メキシコ世界選手権・モントリオールオリンピックなどで優勝・準優勝・入賞。監督時代にも、多くの大会で入賞を果たす。2003年 ワールドカップ・2004年アテネオリンピック・2008年北京オリンピックでは全日本女子バレーボールチームの監督を務める。現在は、きらめき未来塾理事、芦屋大学特任教授、アスリートネットワークの理事長を務め、思いを共有するトップアスリートが自主的につながり自らの成長の過程で得た本物の感動を次世代を担う子供たちに伝え、人として生きる力を育てていく社会的ムーブメントを興すため青少年の健全なる育成に努めている。</p>
<p>あきはらのぶはる 朝原宣治</p>	<p>兵庫県生まれ。夢野台高校・同志社大学卒業。現在、大阪ガス株式会社人事部に在籍。アスリートネットワーク副理事長。大学3年生の国体100mで10秒19の日本記録樹立。その加速力から「和製カール・ルイス」と呼ばれた。2008年には自身4度目となる北京オリンピックに出場し、400mリレーでは、悲願の銅メダル獲得。同年9月競技生活引退。妻は、元シンクロナイズドスイミング選手でバルセロナオリンピック銅メダリストの奥野史子さん。</p>
<p>しもがま まき 下垣真希</p>	<p>島根県浜田市生まれ、岐阜県下呂市で育つ。金城学院高校卒業。愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。ドイツ国家声楽教授資格を取得し、ケルン国立音楽大学を卒業。2000年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万博閉会式で独唱。「カリスマ的」「非凡な声の芸術」とドイツの新聞で絶賛される。2005年の愛・地球博でもソロコンサートを開催。1998年都市文化奨励賞、2001年大衆文化賞、2008年愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞。日本の唱歌や世界の名曲など、5枚のCDをリリースしている。現在、名城大学大学院で多文化共生論、同大学でドイツ語の教鞭をとっている。</p>
<p>Stephen S. Wheeler (スティーヴン・ホイラー)</p>	<p>カリフォルニア州サンルイス・オビスポ出身。カリフォルニア ポリテクニク州立大学(経営学・国際関係学士号)、サウスカロライナ大学大学院(国際経営学修士号)卒業。名古屋アメリカンセンター館長・在名古屋米国領事館 広報文化交流担当領事。2010年7月、名古屋アメリカンセンター館長として着任。1998年より米國務省外交官。ポーランドとドミニカ共和国にて経済担当官を務め、在大阪神戸総領事館領事業務担当官、2007-2009年 國務省ヨーロッパ・ユーラシア局デンマーク・アイスランド担当官を歴任。現職着任前、横浜の米国國務省日本語研修所で日本語を学ぶ。</p>

8. 2010きらめき未来塾 講師インタビュー（一部抜粋）

◆ 講義1 大川哲次講師 : 「私の歩んだ人生と法曹への道」 ◆

Q 今年の高校生の印象はどうでしたか？

A そうですね、総体的によく聴いていてくれました。何人かズーっと講義を聴いてくれてたけど、ああいう子が前に出てくれたらね。

Q 今日、弁護士の方が日本では都市部に過密しているということですが、国はその点において何か対策を取っていないのですか？

A 国はね、弁護士が増えたら当然過当競争になって弁護士業界が厳しくなるともちろん把握している。そのためには例えば公務員になったり民間に弁護士資格を持ったまま入ったり、講義でも触れたけれども今まで弁護士のいなかった過疎地域にまんべんなく弁護士を配分して貰いたいと、そう考えとったんです。そやけどそれは非常にうまくいかない。財源が厳しいでしょ？それに民間もそんな高い給料を払ってね、弁護士を雇うスポットがどこにもない。過疎地域にも若い弁護が行くことについてもやっぱり若い弁護士は大都市で、有名な大きな事務所に入って、そこで活躍の場を求めてしまう。だから弁護士が増えたことで大都市に集中してしまっただけで就職も難しくなっている。また、僕が一度考えてほしいのは、ロースクールを出て3回司法試験に落ちるともう司法試験そのものを受けられないんですよ！ロースクールへ入ったら80%くらいが合格できると言われていたが、今は実際に合格できるのは30%。

Q 日本と比べ、海外では弁護士の数がすごく多いとのことですが、日本と同じようなことは海外ではないのですか？

A ある！今のフランスは25%が司法試験に受からない。アメリカもそう。アメリカの場合はどんな事件でも法律以外のところでも働いている、政治家や民間企業でも。アメリカの場合は弁護士に事件を依頼したけれどもその弁護士がうまくやらなかったら違う弁護士を雇って最初に依頼した弁護士を訴えるということを専門にしている弁護士もいる。弁護士を相手にする弁護士もいるくらいアメリカではものすごく専門化されている。日本には弁護士を相手にするような弁護士なんていないでしょ？だからそこまで専門化していない。

◆ 講義2 小松としゑ講師 : 「国際社会で学ぶこと」 ◆

Q 現在の金融危機に対する日本政府の対応はどう思いますか？

A 日本政府が行なっているIMFへの資金提供と景気刺激策は金融の専門家の間でも評価されている対応だと思います。今後重要になってくるのは金融機能の強化において、日本がリーダーシップをとれるかどうかです。金融庁の努力だけでなく、政治家による国民への説明が必要になってきます。また景気刺激策として税金を投入する場合は財政規律も大事になってきます。そのため経済構造、全体の改革について議論をしていかないといけません。

Q 高校生に読んでほしい本はありますか？

A 明治時代に国際社会に対して日本の価値観を説明するために書かれた新渡戸稲造の「武士道」です。新渡戸稲造は国際連盟の事務局長や東京女子大学の初代学長など様々な活動した人です。明治時代を代表する国際人だと思います。新渡戸稲造が国際社会に日本の価値観を説明する上で到達したのが武士道でした。現代の日本の価値観というものを考える上でディベートなどの題材にも適していると思います。

◆ 講義3 高久晃講師 : 「今、青春に戻れたら」◆

Q 今回の塾生の印象を教えてください。

A 皆いいんじゃないの。だけど、俺が考えていた以上に、若々しいし、子供だな。もっと大人びた子がいると思っていたけど。だけど、生きているということに関しては自分で自覚をもっていると思うけど、まだまだ子供。しかし、今から色んな試練が待っているよな。本流を渡りきらなきゃいけないのは、これからの話だ。俺達は水のゆったりした所にいるけどね。

Q 高校生が、今から夢を見つけていくためには、読んでいたらいと思う本がありましたら教えてください。

A 色々な本があるな、講義では言わなかったけど。今こんな50年前の小説は流行っていないんだけど、やっぱり、マルタン・デュ・ガールの「チボー家の人々」やロマン・ロランの「魅せられたる魂」。ああいうのは、一度読んでおいた方がいいな。一人のか弱い人間が、周りとは色々ぶつかりあいながら伸びていく、大河小説だな。13巻位あるけど、やっぱり読んでおいてよかったなあ。トルストイとか、ああいった重い小説もいいけども。日本の小説では…今、村上春樹を読んでいる最中だけど…昔の本、明治時代、(夏目)漱石とかは、一応読んでおいた方がいいんじゃないか。ただ、その時代と、今の日本では大分変わってしまったけど。普遍的な妥当性があるのはやっぱり、俺が大学2、3年に読んだ「チボー家の人々」「魅せられたる魂」。それらを読んで、一人の人間は、こういう風に育っていくんだというのを感じた。そこで、重要なのは、戦いであるということ。それは、自分と妥協しない戦いでもあるし…(小説に描かれている時代は)革命的なものが多かったからな。

◆ 講義4 柳本品一講師 : 「人生負け勝ち」◆

Q 柳本さんが監督に就任する前は単独チーム主体でしたが、それを完全選抜制に変えたとおっしゃっていました。新しいことをすると同時に困難も生じるとは思いますが、それをどう乗り越えましたか？

A 何をするにしても傾向というものがあると思います。今までは伝統として受け継がれ、その間にそれぞれの人が関わってきた。特に私の場合は、それらを打ち壊してやってきました。今までつながれて来ているということを打ち壊して新しいことをするというのは、ここから先ゼロということ。私は監督になりたいと思ったことはなかった。巡り巡って、自分がそこに就任していった。力が入っていないから客観的に問題点をみることができる。信念がありますから、自分を信じてやり遂げていきました。

Q 次世代リーダーに必要な要素は何だと思いますか。

A 思いやりです。根本的にそれを持っていなければだめだと思いますね。人間十人十色。同じスタートラインに立っていても、皆進むスピードが違うのです。皆必ず伸びる瞬間があるのです。例えばピースをしてみてください。自分一人だと(人差し指と中指の間は)これだけしか開かないでしょ？でも他人が手を貸すとこれだけ開くでしょ？これが指導者の仕事です。伸びた瞬間に褒めてやるということです。その瞬間にできたということを知らしてあげる鏡にならないといけない。結果が出た瞬間というのは次のスタートの間でもあります。成功の絵をキャンパスに描くとき、僕は信頼関係で描きます。大事なものは、監督と選手で信頼関係を構築すること。

◆ 講義 4 朝原宣治講師・荒川大輔講師 ◆

Q 高校生の印象を教えてください。

A (朝原) 積極的とまではいかないが、興味を持ってきていましたね。極力僕と目を合わせないようにしていましたけどね(笑)。楽しんでもらったかなあと思いました。

(荒川) 暗い雰囲気の際はすごく暗いところもあるので、よかったですよ。

Q 夢も決まっていない子もいます。どのような基準で夢を定めていけばよいでしょうか。

A (朝原) 僕は陸上をやり始めたのが高校で、記録もどんどん高校の時に伸びていきましたので、陸上競技が目標ではありました。しかし陸上競技でオリンピックに行くという夢までは持っていなかったんです。目の前にある目標をクリアしていくことで、将来的な夢につながっていくのではないかなと。

(荒川) 僕は小学校の時に母さんに卵焼きの作り方を教えてもらったら「将来卵焼き屋さんになる」とか。そのときに一生懸命やっていたことが軸になっていると思います。夢は変わっていいと思いますよ。

(朝原) それから、外国に行くというのも夢でしたね。

Q 高校生時代は多感だったと思いますが、悩んでいたことなど教えてくださいませんか？

A (荒川) …モテ期がいつくるか…(笑)

(朝原) 高校時代は六時間授業を受けて、毎日同じことを繰り返しているようでつまらなかったですね。悩みは特に無かったですね。繰り返しの多い日常から、陸上に楽しさを見出していました。

(荒川) テストがあと何回あるか数えていましたね(笑)

(朝原) 高校に入学したことや陸上の試合で遠くへ行くことで、行動範囲や人脈の幅が少しずつ広がり、視野が広がった感覚がありますね。

(荒川) 僕は人間関係に悩んでいましたね。派閥ができるじゃないですか。僕は中間的な立場をとっていたのですけれど。

Q 高校生のうちにやっておいてほしいこと/やっておけばよかったことはありますか？

A (朝原) 海外に興味があったのに、両親も外国に関係なくてルートがなかった。チャンスを逃したんじゃないかなと思います。外国に興味があるなら、早く行けば行くほど頭も柔らかいし。

Q 未来塾に参加した高校生にメッセージをお願いします。

A (朝原) 夢を持つということはなかなか難しいことです。でも希望を持っておく。自分には可能性があるということに自信を持って下さい。今興味のあることをクリアしていくと、必ず将来自分の人生に役に立つのではないかなと思います。頑張ってください。

(荒川) 一生懸命頑張って。今一生懸命何事にもチャレンジして頑張ってほしいなと思います。

◆ 講義5 下垣真希講師 : 「心と感性を磨き豊かに生きる」◆

Q 今年の高校生の印象はいかがですか？

A 割とまとまりがあって、集中力のある子もいましたね。ちょっと雷を落としましたけれど。去年よりは今年の方が手ごたえを感じましたね。

Q なかなか夢が決まらない人もいます。下垣先生はいつごろに進む道を決められたのですか？

A 声を失った頃です。人生は、色々なことを経験していくうちに、『私はこのために生かされているのかな』と思えることが見つかると思うのですね。それまでは紆余曲折、目の前にあることを一生懸命。

Q 悩みも多い、多感な時期の高校生にメッセージをいただけますか？

A 悩むということは素敵だと思います。悩んでいる本人は辛いと思いますけれど、それを乗り越えたら、きっと明るい日が差ししてくると思います。悩むというのは心が死んでない状態なのです。人の痛みが分かるようになったり、自分に強さを与えてくれたり、自信を与えてくれたりします。心が生きている状態だから大丈夫です。悩むことは素敵なことです。

◆ 講義7 吉澤 健講師 : 「卒塾生へ」◆

Q 塾生の印象をお聞かせ下さい。

A 非常に私はよくなってきているのじゃないかと思います。数が少し少ないのですが、初日から純粹に感動しております。

Q 今回、近畿未来塾からきらめき未来塾に変わったわけですが、その点について何か変化は感じてもらっていますか？

A そうですね、多くの方が関心を持ってくださるようになったということですね。今までは限られた塾でしたけど、入れ替わり立ち替わり人がやってきて塾生には邪魔かもしれないけど、でも多くの方に関心を持っていただけてるなあという感じですね。

Q 未来塾という貴重な経験を通して、塾生にどんな大人になってもらいたいですか？

A リーダーっていう、もともとそういう希望を持っているんですけど、どこの分野というのではなく、リーダーになれるだけの努力をまずもって頂きたいということと、その前提として good citizen よき市民、であってほしいと。そうでなければリーダーとして人はついてきません。

Q 塾生に一言メッセージをお願いします。

A 是非、これで終わりということではなくて、大学に入っても社会人になっても、この塾が開催されている限りまた顔を見せてほしい。あるいはサポーターとして…サポーターはたいへんだろうから「どうしてる？」とか是非顔を出して頂きたいなと思います。

9. 活動報告

(1) 講義について



医療、スポーツ、芸術、法曹等、様々な分野から講師を招き、専門知識、体験談などを通し、自分の夢をしっかりと持つことの大切さを話していただいた。参加塾生の多くから、将来の夢や目標をしっかりと持つことの大切さを学んだ、夢を実現させるためのプロセスを考えることの大切さに気が付いたなどの声が聞かれた。塾に参加したことが自分の将来についてしっかりと考えるき

っかけとなり、夢の実現につながれば喜ばしい。多くの塾生からは、同じ話を聞いても自分とは違う意見や感想を持つ人がたくさんいるということに気づき、自分の価値観だけで物事を判断せずに、他人の意見にも耳を傾け、他人と違う意見を持つことの大切さも学ぶことができたとの意見が寄せられた。昨年度から取り入れた講義後のディスカッションでは、ディスカッションの課題探しに工夫が必要ではないかという意見が多かった。講義内容が専門的で理解するのが難しかったり、講義時間の延長で話し合う時間が十分に取れなかったりしたこと以外に、ディスカッションのテーマの選択方法にも問題があったようだ。講義時間の延長に関しては各講師に講義後のディスカッションをする意向を明確に伝え、講義時間の調整を考慮してもらうこと、テーマについては、会話のきっかけ作りが重要なのではないかという意見が多かったことから、講師からの議題の提供や、会話のきっかけ作りなどの工夫を考える必要があるだろう。

英語の講義には、本年は名古屋アメリカンセンター館長 名古屋米国領事館領事にお越しいただいた。英語での講義を初めて受けたという塾生がほとんどだったようだ。全体的にみると、講義内容を理解ができた塾生、なんとなく理解ができた塾生、まったくわからなかった塾生に分かれていたようである。ネイティブの話す英語を直接聴くことができたことに衝撃を受け、楽しめた、また受けたいと思ったという感想をくれた塾生が多数いた。そして英語を学ぶことの大切さも身にしみたとようである。

今年初めて取り入れたパネルディスカッションには大きな反響があった。特に、塾生たちに年齢が近いサポーターから聞く大学の話は身近で現実味があり、近い将来自分たちに訪れることでもあるので真剣に耳を傾ける塾生が多かった。塾生から積極的に質問する姿も見られ反応が良かったという印象が残ったので来年度はこのパネルディスカッションの時間をもう少し長く取り、もっとたくさんの意見を交換できる場としたい。本年度から、東京・広島の実務局の方々にも実際に事務局の仕事に関わってもらえる機会を増やした。野外学習での説明・英語講義でのアシスタントや卒塾式の司会など、例年よりもかなり積極的に事務局としての役割に関わっていただいた。これは事務局間の連携や共通認識を深める上で大いに役立ち満足度の高い結果になった。今後も継続していきたい。

未来塾は、過去の失敗を踏まえてプログラム内容や運営方法について改良を重ねてきた。参加者の様子から内容の充実度を感じることができるのは喜ばしいことである。そして寄せられた反省点は次年度に大いに生かせるように話し合いを重ねさらに良い未来塾になるように生かしていきたい。何事においても、時間経過と共にマンネリ化し、目的や趣旨から遠のいていくことが多い。未来塾の主旨が本来の目的から離れたものにならないように、軸となるものを見失わないように、参加者全員が検討し続けていくことが大切である。



(2) 野外学習について

今回は、開催地である飛騨の自然豊かな環境を生かして、カリキュラムに野外学習を取り入れた。これまでの未来塾では、山梨での開催の時に、馬籠宿の見学をしたことはあったが、帰りの途中のオプション的なものであったので、カリキュラムとして取り入れるのは初めてということになる。

野外学習の内容は、飛騨市の隣に位置する世界遺産・白川郷の見学と、天体観測、それから、最終日の「飛騨の歴史・文化に触れる」ということで古川祭り会館と瀬戸川、白壁土蔵街の見学を行った。

白川郷見学

きらめき未来塾は、国際化の進むこれからの時代を引っ張っていくリーダーを育てることを趣旨としている。グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍するためには、まず自国、日本の文化を知ることが必要である。

白川郷は、日本を代表する文化遺産でもあり、ドイツの著名な建築学者ブルーノ・タウト氏がその著書「日本の美の再発見」のなかで「合掌造家屋は、建築学上合理的であり、かつ論理的である」と絶賛した通り、日本が誇る伝統技術の遺産でもある。また、私達が忘れかけている、美しい自然と共に暮らす生活、まさに日本の原風景が残されている場所である。

普段、あまり考えない日本の伝統、文化、風習、生活などを見つめなおしてみよう。

以上が、白川郷見学の目的である。

研修会場から白川郷までは、バスで約70分。午後からは、講義があるため見学時間は1時間程度しかとることができない。行きのバスの中で、白川郷の歴史や産業についてと、見学の目的を説明した。到着してからは、チーム単位での自主研修とし、合掌造家屋の和田家、神田家、長瀬家のいずれかを見学することとした。

到着しバスから降りると、周りは山に囲まれ、透き通った水の流れる川に吊り橋がかかっている。それだけで、都会に住んでいる塾生達を感動させたことと思う。

白川郷の合掌造は、教科書で知っていても、実際に見るのは始めてという塾生がほとんどで、また、外観だけでなく中に入ったことで、合掌造家屋の構造やクーラーがないのに涼しいことに驚き、日本の先人達の知恵に感動し、日本の伝統や文化、そして集落を囲んでいる美しい自然を守らなければならないと感想を述べている塾生が多かった。

当初、白川郷見学をカリキュラムに取り入れる意図を理解してもらえないのではないかという懸念もあったが、しっかりと学びとってくれたようである。

学習面だけでなく、チーム単位での行動だったので、家屋の見学の後に一緒にお土産屋を見たりかき氷を食べたりすることで、チーム仲も深まったようだった。昨年から未来塾に参加しているサポーターからも、次回も取り入れて欲しいという声もあった。

見直すべき点は、実施日である。2日目に行ったのだが、塾生同士仲良くなるきっかけとなった点は良かったが、朝早くからの夏の暑い中での見学で疲れてしまい、午後からは集中力を欠いてしまう塾生も見られた。



また、講義を受ける前だったので、学習するという姿勢にまだ入ってなく、単なる遠足気分の塾生もいた。講義をいつか終えてからのほうが、学ぼうという気持ちが高まっており良かったのではないかと、例えば国際社会で活躍するための話があった講義 2、講義 6 に関連付けて行う等すると、より見学学習としての内容が深まったのではないかと思う。

天体観測

天体観測は、2 日目の夕食後、講義会場からバスで 5 分ほど上った所の、かわいスキー場のロッジ、駐車場で行われた。

地元、飛騨市の天文サークルの方々のご協力のもと天体望遠鏡積載車「ドリームスター号」他 13 台の天体望遠鏡をご準備いただいた。

まずスキー場ロッジに掲示された星の写真を鑑賞し、次に飛騨プラネタリウムの上村氏より映像を交えて星の講話があった。

事務局では予め『星座早見盤』を配付していたが、説明を聞きながら、確認している塾生もいて、合わせて星への理解がより深まったのではないかと思う。

日が落ち、暗くなってから外に出てみると、曇りと出ていた天気予報に反し、晴れの夜空になっていた。早速、塾生達は望遠鏡を覗き込み、金星、土星の映像をはっきりと目に焼きつけていた。



さらに地元サークルの方々がレーザービームで夜空に向かって光線を発しながら、星の説明をしてくださり、的確に星の位置を確認することができた。山の上ということで、星座がとても大きく見えることにも驚いた。

時折、「あっ、流れた！」という流れ星を見つけた歓声も上がり、中には、この会場となった駐車場に寝そべって空を見ていた塾生もいた。

普段住んでいる街中では見ることのできない星空は、塾生だけでなく、サポーターや事務局員にも感動を与えていた。同時に、「この星空の見ることも自然を守らないといけない」と考えた塾生も多かったようだ。

飛騨の歴史・文化に触れる（市内見学）

最終日、帰途へとつく前に、飛騨古川駅の周辺の散策を行った。まず、全員で「まつり会館」の見学をした。ここでは、立体映像により、重要無形文化財の飛騨古川祭りを見ることができ、実際に祭りで使われる屋台が展示されている。立体映像の迫力に思わず歓声が上がっていた。

見学が終わってからは、チームごとに土産物を見たり、瀬戸川や白壁土蔵周辺散策となった。遠方から来た塾生や、東京から参加の塾生は帰りのバスに乗らないので、チームで 5 日間を振り返り、別れを惜しむ時間となっていた。

今までの未来塾は、室内の講義中心となっていたが、今回は、開催地の環境や特色を活かす学習を多く取り入れることが出来た。

自分の目を見て、体験し、考える学習は、より身に付き、印象に残っていくものだろう。

きらめき未来塾の趣旨に外れることなく、良い体験学習、野外学習をこれからもカリキュラムに取り入れていきたい。

(3) パネルディスカッションについて

きらめき未来塾に来て頂いている講師陣は、各界において第一線で活躍している方々ということで、高校生である塾生と年齢が離れている方が多い。憧れや尊敬を持って講義を聞いていると思うが、共感を持つということは少ないのではないだろうか。もっと、塾生と年齢が近い講師も呼びたいというのは常々思ってきたことだった。

高校生達にとって目前にあり、興味を持ち不安を感じていることと言えば、やはり大学受験等、高校卒業後の進路だろう。

前回の未来塾では、チームミーティングの時間に、担当サポーターによる大学や就職についての体験談を話したり、塾生の進路の悩みを聞く時間を設けた。しかし、それでは、チームによって内容に偏りがあり、「塾生に何を伝えていくか」という上でサポーターの意識の統一がされていないなどの問題があった。

そこで今回は、理事会で未来塾OB(卒塾生)に、塾生の前で話をしてもらったらどうかという案が上がったこともあり、卒塾生サポーターやその他大学生サポーターに、パネルディスカッションをしてもらうことにした。

中心となってもらったのは、この未来塾とは別のリーダー養成研修に参加した経験があり、これまで4回、サポーターとして参加してもらっている現在大学4回生で、来春から就職が決まっている黒田恵美さん。事前に打合せを行い、きらめき未来塾の趣旨の確認をし、パネルディスカッションを行うことで何を塾生に伝えるかということ話し合い、テーマを選定した。その上で、大学生サポーターからパネリストを選定した。

お願いすることになったのは、現在アメリカ留学をしている若杉昌哉さん、2度目の大学で芸術大学に通う音楽担当サポーターの高崎翔平さん、そして、卒塾生で現在大学2回生の中村容子さん。7月に行った事前の研修会の時に、テーマを伝え、発表内容を考えてくるようお願いをした。

未来塾3日目、パネルディスカッションは夜に行うので、午前中にパネリストとコーディネーターを務める事務局とで打合せを行い、全体の流れを考えた。

パネリスト4名は同じ大学生だが、それぞれ異なった進路を進んでいる。それぞれ、悩んだことや時期も異なっていて、自然と発表順が決まった。

最初のテーマとして、「自分自身の進路について高校時代に悩んだこと、現在の学部を選んだ理由、大学に入学してからの悩みについて」。4人がそれぞれ、高校時代の悩み、大学入試時期での悩み、大学に入学してからの悩みと、そのようにして今の学部や進路を選んだかということ。次のテーマとして「大学生活について」を話すことにした。日本の大学での生活、留学やアメリカの大学について発表することにした。

事務局コーディネーターは、塾生には、パネルディスカッションに参加したことがない生徒もいると思い、それを経験してもらう目的と、今までチームで仲良くしていたサポーターの話だからと言ってふざけた雰囲気にならないよう、会場セッティングをし、進行を行うようにした。

パネルディスカッションが始まり、最初はすごく緊張、不安がっていた4人だったが、自分の発表する番になると、堂々と発表をしていた。



塾生達は、朝から講義を4つも受けた後だったが、しっかりと前を見て真剣な表情で話を聞き、質疑応答の時間になると、次々と手が挙がっていた。パネリスト4人も的確に答え、質問者以外の塾生も興味深い様子で聞いていた。

塾生達の感想には、「大学のことを何も知らなかったから、話をきけてよかった」「大学に行くことが重要なのではなくて、そこで何をすることが大事だということが分かった。」「一人ひとり、それぞれの道は違うと感じた」「しっかり自分と向き合って、今何がしたいか、そのために何をしないかいけないかを考える必要があると実感した」等が書かれていた。

やはり、自分達と身近な大学生達の声は、塾生達の心にまっすぐ届き、自分達これからの行く道を考えるきっかけとなったようだ。終わってからも塾生同士で、悩みなどを話し合っている姿が見られた。

パネリストのサポーターも、話ができて良かったと話してくれた。また、他のサポーターからも「塾生にとって良い時間だったと思う。来年からも是非取り入れてほしい」との声が多くでていた。

見直すべき点は、パネルディスカッションに使うことのできた時間る時間の制約があり、質疑応答の時間が短かったことである。大勢の前では質問しづらい生徒もいるので、パネリストが塾生のもとに行き、グループに分かれて討論する時間がとれていたら、もっと活発な意見交換ができたのではないかと思う。来年は、時間をきちんと確保し、より有意義な時間となるよう計画したい。



(4) チームミーティング



レインストーム (8/3のチームミーティング)

毎年行っているチームミーティングでのこの課題は、アンサンブルの基礎であり、音楽の得意、不得意に関わらず、身近な音素材や自分自身のボディーパーカッションで音を作り上げる。また五線を使わない記譜法を使うことで、皆が同じスタートラインで参加することができる。

はっきりした、拍子やリズムなどの決まりがないのでお互いの空気を読んだり、アイコンタクトや呼吸を合わせるこ

とによってチームで一つの作品をつくりあげるので、チームの交流を深め、結束力を高めるのに有効である。

先に“レインストーム”という既成の曲を使って説明を行う。楽譜に従って“風”“雨”“雷”などの音をボディーパーカッションで表現し、一つのストーリーを完成させるというものである。サポーターが見本を見せた後、塾生を二つのチームに分け、演奏の練習をした。次に、この“レインストーム”を例に、チームごとに新たなストーリーと独自の楽譜を創作してもらおう。30分程度、チームで相談・練習をした後、発表会を行う。発表会では、サポーターと事務局員が審査員となって、1位2位、楽譜賞を決定する。

最初は戸惑いもあり、なかなか進まないチームがあっって心配したが、中心になる塾生が出て、チーム内での役割が決まってくるとすごくスムーズに進んでいった。



「夏」「すいか割り」「電車」など、ユニークな題材が多く、題材が同じになってしまったチームも音の出し方がそれぞれ違っていたので、工夫の違いがわかり面白かった。使うことの出来る音素材を工夫して、強弱や、速度変化などを表現していて、今回は音楽的に見てもクオリティの高い作品がでていたと思う。また塾生の特技（ヴォイスパーカッションなど）を使った音も取り入れているチームもあった。

楽譜の工夫も審査対象にしたため、カラフルなものや工夫を凝らしたものが多く出来上がっていた。そんな中でもあえてシンプルで勝負してくるチームがあったり、それぞれのチームのカラーを出しながら、十分に工夫して取り組むことが出来ていた。

チームフラッグ作り（8/4のチームミーティング）

きらめき未来塾では、塾生は8～9人ずつのチームに分かれて活動をするのだが、チーム名を決めてもらうことにしている。チーム名を自分達で決めることにより、自分達でチームを作り上げる一体感が生まれるのではないだろうか。チーム名を付ける時のルールは、「最初に与えられたA～Gのアルファベットを取り入れること」である。アルファベットによっては、パターンが決まってしまうのではないかと思うが、今まで行ってきた中で同じチーム名がでたことがない。



チームミーティングの課題として、このチーム名を描いた「チーム旗」制作を行った。素材は、2mに裁断した晒。布用クレヨンで、チーム名を描き、紙で図を切り抜き、スポンジで色をつけていくステンシルで模様を付けることとした。



ステンシルで模様付けをすることにしたのは、作業課程を増やすことで、チーム全員が参加しやすいようにすること、また模様を考えるのは苦手だけど、下書きに合わせて切ったり、色をつけることは出来る、という風に分担できることで、絵の得意な塾生の一人舞台にならないようにするためだ。

早速、デザイン担当、文字担当、ステンシル担当、色担当など、役割分担をしていたチームがあった。それぞれの得意分野を発揮していた様子で、意図を理解して進めてくれてい

て良かった。

1時間足らずの短い時間だったが、全チームが時間内で完成することができていた。どの旗もチームの個性がでていてとても良い仕上がりとなっていた。各チーム代表者1名ずつで作った「きらめき未来塾」と描かれた旗と共に並べて、全員で記念撮影を行った。

チームで協力し1つのものを作り上げるということは、協調性を養うことができる。また、創作活動は個人の性格や特性があらわれるので、お互いを良く知ることができる。

音楽レクの「レインストーム」、「チーム旗作り」のように、創作をすること、協力し合い一つの目標を達成させるということは、この未来塾において重要な活動と思われる。



情報が氾濫し、またメールやインターネットが普及している現代において、想像力が低下し、集団活動が苦手な子供やコミュニケーション力が不足している子供は増えている。

これからの時代のリーダーとして、必要不可欠なこれらの能力を養うため「創作活動」「チームで一つの目標を達成させる」課題は、今後も取り入れていきたい。

チーム反省会（8/5のチームミーティング）、発表会

4日目、全カリキュラムの終了後のチームミーティングは反省会を行う。反省会は、まず各自で、講義や野外学習、合宿生活やチームミーティング、レクリエーションで学んだことをまとめ「振り返りシート」に記入する。それと同時に、自分の夢や目標を掲げ、きらめき未来塾で学んだことを目標や夢の実現のためにどのように役立てていくかを考えてもらう。個人の振り返りが終わったら、チームで反省をまとめ、夢や目標を発表する。

4日間学習したノートを見ながら記入している塾生など、皆真面目に取り組んでいて、提出された振り返りシートは例年より多くの字で埋められていた。

今回の未来塾では、その日の学習で学んだことや感想を書く「夜の課題」も出していた。皆、声では嫌がっていても、夜に部屋に見回りに行った時に並んで課題をしている姿が印象的だった。そして提出された課題シートから、塾生達はどのカリキュラムも一生懸命に取り組み、自ら学ぶことができていることが伺うことができる。

反省会の後は、卒塾式と、将来の夢や目標についての決意表明を行う発表会である。発表会は、チーム発表会で代表3名を選抜して行う。

これまで、なりたい自分を明確にイメージし、肯定的に宣言する「アフメーション」について、講義で説明し、塾生が自分でアフメーションを考え発表を行うという形で行っていた。そうすることによって、自分への負の思い込みを取り除き、潜在能力に気づき目標達成に向けて行動することを可能とする。アフメーションを作成するために、サポーターが塾生に指導できるよう、事前に研修も行っていった。

しかし今回は、アフメーションという形式にとらわれず「将来の夢や目標についての決意表明」ということだけを伝え、チーム反省会の時間だけで考えてもらった。そのため、発表の仕方を工夫していた点は良かったが、チーム内でもバラバラで統一感がなく、発表時間が長くなる塾生もいて緊張感がなくなってしまう場面もあった。やはり、発表会と卒塾式はきらめき未来塾の要となる所なので、内容を十分に検討し、塾生への指導だけでなくサポーターへの事前研修も十分に時間をとって行うことが必要である。来年の重要検討事項である。

しかしながら、堂々と発表する様子からは、チームリーダーとして仲間を引っ張っていた子、

消極的だったが、積極的に意見を言えるようになった子、サポーターの報告通りに、塾生達の成長を感じることができた。この5日間で学んだことを糧にして、力強く夢に向かって歩いて欲しい。

塾長より一人ずつ卒塾証書を受け取り、全てのカリキュラムと卒塾式を終えたが、塾生達は気を緩めることなくキャンプファイヤーの出し物の練習に一生懸命取り組んでいた。



(5) レクリエーション・合唱 について

レクリエーション担当：宮地賢和、長倉 愛

音楽担当：高崎翔平、石松千咲

バス内レクリエーション

今回は遠隔地で開催ということで、バス移動が長時間となる。理事でもある前田嘉昭講師を中心に「レクリエーションでコミュニケーションを図る」というカリキュラムでバス内レクリエーションを行うことにした。

前田講師とレク担当2人と音楽担当2人が2台のバスをサービエリアで乗換し、ゲームと音楽・合唱を交代で行った。まだ、全く塾生同士のコミュニケーションが取れていない状態と、シートベルト着用の為、動きに制限があること等、心配な点が沢山あったが、サポーター、事務局皆で盛り上げることができ、塾生同士の交流が深められたのではないと思う。

ゲームでは、前田講師による導入の後、レク担当サポーター2人で、開催地のフィールドを知るための岐阜県クイズや、3日目の夜に行う天体観測のための星空クイズ、バスに乗っている塾生やサポーター全員が順番に30秒自己紹介などを行った。

また、キャンプファイヤーでも歌う「友達になるために」を、手話をつけて歌い、言葉だけではないコミュニケーション方法も伝えることができて良かった。

2台のバスでは中の雰囲気の違いがあったが、両方とも時間が経つにつれ笑い声が起こっていった。前田講師が、スタッフ全員で協力して塾生を歓迎しようと、レク以外のサポーターや事務局も巻き込んだゲームの展開を行ったことで、大いに盛り上がり非常に楽しい雰囲気になった。

音楽は、キャンプファイヤーの時に歌う合唱練習を中心に計画を考えていたが、塾生同士がまだ出会って間もない時なので、歌の練習に入る前に、無理なく参加でき、良い雰囲気になるよう、アイスブレイクを行った。

最初はボディーパーカッション（拍手や膝を叩くなど）を用いたリズム遊びを行った。バスの座席列ごとに、単純なリズムパターンを練習し、お互いに合わせる事により、複雑で厚みのあるリズムを作ることが出来る。次に、リズムにあわせて自己紹介を行った。自分の名前、あだ名などを4拍子のリズムにあわせてマイクで言う。

これらは、声を出すにはまだ堅さが取れないバスの中で、まずは体を動かし、歌にあわせて声が自然に出せるようにすること、これから5日間一緒に過ごす仲間の名前やあだ名が少しでも早く覚えられるようにすることが目的である。

最初に行ったボディーパーカッションは、分からなくなってしまった塾生もいて、あまり盛り上がりなかった。しかし、後で出来るようになったと見せに来てくれる塾生もいて、一生懸命取り組んでいたようである。名前のゲームは、皆、様々なリズムをつかって自分の名前をいい、周りもそれに合わせて手拍子して、とても温かい雰囲気が進めることができた。

反省点としては最初、前田講師との時間配分など、詳細なタイムスケジュールを組んでいなかったため、1号車と2号車ではゲームする時間に差ができてしまった。

また、隣同士でもっと自分たちの事を知ってもらう機会を作れば良かったと思う。立ち歩けないということで塾生とコミュニケーションをとりながらできなかったのも、サポーターは分かれて座るなど、工夫をしたら良かったのではないかと感じた。

バスの中の環境を考えた上で、改善すべき点が多々あるが、これらのレクを通し、塾生同士も打ち解け、サービエリアでは率先して会話を交わし仲良くなっている様子も見られた。塾生の感想にも、知らない人ばかりで不安だったが、バスレクのおかげですぐ打ち解けることができたと書かれてあった。「コミュニケーションを図る」バス内カリキュラムは成功したと思う。

合唱について

今回選曲した作品は、一つは前回と同様、夏らしくサンバのリズムでアップテンポ、大声で歌って盛り上がる曲でボディパーカッションを取り入れた作品「風になりたい」。

もう一つがNHK合唱コンクールの課題曲にもなった、森山直太郎の「虹」。この曲を選んだのは、少し難易度の高い作品であるのだが、歌詞に「きらめく日々」「未来を目指した旅人」、「出会い」は「別れ」、「別れ」は「出会い」というものがあり、音楽サポーターが前回までに参加した未来塾で感じた全てがこの歌詞に含まれていると感じ、未来塾の最後のキャンプファイヤーで歌う曲にふさわしいと思ったからだ。また、塾生たちも歌詞から何かを感じてくれればと思った。

今回は練習時間がほとんど取れなく、移動時間での練習にかかっていることがわかっていたため、必死の音とりだったが、バスの中では色々な制約があり、十分な音を塾生に提示出来ず、また後ろの座席の塾生まで目が行き届かないので、もっと有効な方法を考える必要性を感じた。しかし、サポーターが率先して、歌える雰囲気を作って協力してくれたので、塾生も声をだし、きっちり時間内に音をとることができた。

初日のバス、キャンプファイヤー前の合唱練習、野外学習時の移動中のバス内での練習のみだったが、キャンプファイヤーの時、皆大きな声をだし、そして何より全員が肩を組んでキャンプファイヤーを囲んで合唱したことは感動的だった。「虹」の歌詞の意味もかみしめてくれていたことと思う。



朝のレクリエーションについて

宿舎が2箇所に分かれているため、朝のレクリエーションも2つに分かれて行うことになった。内容は、頭を使うゲーム、声を出すゲーム、体全体を大きく動かせるゲームを行った。

キャンプファイヤーで行う手話歌の練習をここで取り入れた。

レクを行う場所を確認できるのが当日ということもあり、動きについての動線が不明で行ったが、しっかりと動きがとれ、体を起こす事が出来たと思う。中でも全員で円になり「線路は続くよどこまでも」の歌のリズムに合わせて隣の人の膝を叩いて歌い、合間に合いの手をいれるゲームは、とても盛り上がった。

宿舎ごとに2箇所に分かれて行ったため、レク担当サポーター2人は1人ずつで指導することになった。そのため内容に一貫性を持つことが難しく、中身が少し変わってしまい、共通でできた事と片方でできなかったことが生じてしまった。事前にもっと中身を詰めておく必要があったと感じると同時に、やはりレクリエーションは全体で行えるように環境を整えたいと思う。



キャンプファイヤー

卒塾式を終えた後の楽しみのお楽しみバーベキューとキャンプファイヤーは、バスで30分ほど移動した所にある流葉スキー場で行った。

前日に、レク、音楽担当サポーターと事務局数名で会場の下見に行くと、流葉スキー場を管理している大阪緑風観光飛驒支店の方々が、キャンプファイヤーの薪組みやテントの用意をしてくれていた。薪組みが想像よりかなり大きく、このまま行くと火が大きすぎるのをお願いして半分程にしてもらったが、誠心誠意の準備をしてくれていて、とてもありがたかった。

当日は、雨の心配など全くなく見事な快晴。山々に囲まれた空気のきれいな中で、地元の美味しい肉や野菜、蕎麦を食べたこと、チームやサポーター、事務局や塾長も塾生のテーブルに入っているバーベキューは、楽しい時間になった。

また、バーベキューとキャンプファイヤーには、地元のジュニアリーダー高校生5名も参加した。うまく仲間に入れるか心配だったが、仲良く打ち解けていたようだった。



キャンプファイヤーでは、チームごとのスタuntsと、レクリエーションゲームを行った。スタuntsは、前もってサポーターがくじ引きで、歌や寸劇やダンスなど、どのチームが何を担当するかを決めておいて、塾生には当日キャンプファイヤー前のチームミーティングで発表した。練習時間があまりないにも関わらず、どのチームも工夫を凝らし、個性があり素晴らしいものになった。

スタuntsの他にゲームも塾生自身が盛り上がるとういう気持ちで参加してくれたため、全員の気持ちがひとつ

つになって、良い雰囲気で行うことができた。

ただ、バーベキューとキャンプファイヤーの時間が合わせて2時間半はやはり時間的に厳しく、さらに花火まで行うということで、時間の配分が難しかった。

ワイヤレスマイクを使って行ったのだが、ヘッドセットのワイヤレスマイクは動きながらだと音や声を拾わない事が多くてワイヤレスマイク一本になってしまった。昨年もマイクが使えなくて困ったので、レンタルをしたのだが、環境の問題等もあってうまく使えずとても残念だった。

全てのスタuntsがおわり、最後の合唱「風になりたい」「虹」で歌い始めに塾生たちが自然と肩を組みだした時は感動した。この5日間で塾生たちやサポーターのみんなの強い絆ができていてことを実感した。レクの中でもキャンプファイヤーは未来塾の参加者全員が一つになれるものなので実施していきたい。



今回の、バーベキュー、キャンプファイヤーは、大阪緑風観光株式会社飛驒支店の皆様、飛驒市役所職員の皆様のご協力のおかげで、とても思い出に残る良い時間を過ごせることができた。心より感謝申し上げたい。塾生の感想文にもあったのだが、きらめき未来塾は、沢山の方々に支えられていることを改めて実感した。

10. 塾生の感想（「振り返りシート」より抜粋）

① 講義を受けての感想、学んだこと。

- ◆どの講義を受けてもやっぱり努力する事が、一番大切なんだと思ったし、今までコツコツやってきた事はムダにはならないからまさに努力に勝るものはないと思った。何事にも挑戦していく事は難しいと思うけど、一歩前進して挑戦していきたい。
- ◆「出会いは何かが始まる可能性を秘めている」という言葉が心に残った。何事にも進んで取り組み、自分から一歩踏み出すことによって、新しい考え方や違った物の見方を学ぶことが出来る。
- ◆自分の夢を叶えてきた人たちは、多くの挫折を経験していて、目の前が真っ黒になっても自分の目標に向かって大変な努力をしてきているのだと感じた。私が今していることは甘いと感じた。
- ◆学べたことは、今、成功している人は、やっぱりたくさん苦勞があって、それを投げ出さず乗り越えてきたからということ、人との出会いを大切にすることです。

② チームミーティング、レクリエーション、野外活動を通じての感想、学んだこと。

- ◆野外学習で、世界遺産を見学したり、星を観察したことで、日本を発展させることも大切だが、今までの知恵や環境を壊さないように保護していくことも大切だと感じた。
- ◆最初は上手く話しあえるかなと思ったけど、同じチームの人達とすぐに溶け込み、すごく仲良くなって安心したし、これからの出会いに勇気が持てた気がする。
- ◆レクリエーションで学んだことは、自分が積極的に話さないと、ちゃんとしたコミュニケーションが取れないことです。コミュニケーションというのは、お互いに自分の意志を読み取ることが大切だと思うので、コミュニケーション能力をもっと高めて将来に生かしていきたいです。
- ◆チームミーティングで自分が全く考えていなかったような意見などがでて、それを聞くことがすごく刺激になった。共感できるものもできないものもあったけど、人の意見を聞くことで、自分の考えを再認識したり、違う見方ができたのが良かった。

③ 未来塾で学んだことを、これからの生活、学習、または夢の実現のために、どのように役立てていきますか？

- ◆この合宿で、7つの講義を通し、いろんな視点から物事を見る力をつけられたと思う。これからは、自分の利益だけにとらわれず、多くの人のことを考えられる優しい人間になりたい。
- ◆感謝の気持ち、自分で決めた道を自分で歩いていくことの大切さ、何度立ち止まってもそれを糧にがんばっていく心の強さを持ってこれから生きていきたいと思いました。この5日間は忘れません。
- ◆柳本講師の「何かを変えようと思ったら、自分が変わらなければならない」という言葉は、これから社会にでていく中でどんなことにもあてはまると思いました。たとえどんな状況でも、自分から行動することでチャンスへと変えていきたいと思いました。またどの講師の方も、自分の意志を最後までつらぬいて成功をつかみとっていらっしゃいました。どんな人生になったとしても自分が心の底から本当にやりたいことを続けていけたらいいなと思います。
- ◆「目標をもつこと」「挫折から立ち直ること」これからの人生は、どんな困難が来るかわからないけれどもきつと壁にぶつかると思う。その度に講師の方々の言葉を思い出したい。
- ◆コミュニケーションが大事であるということ学びました。これからは様々な人と交流を深めたいです。もっともっと自分の視野を広げようとも思います。
- ◆未来塾で講義を受けて、自分では学校で習うことしか勉強をがんばっていなかったなと気づきました。これからは、時間のある時は、学校以外の勉強もしていきたいと思っています。



1 1. 事務局活動

(1) 後援許可を得る

大阪府、兵庫県、京都府、広島県および飛騨市の各教育委員会へ、塾の開催趣旨・内容・募集要項等について資料を添えて後援の申請をしたところ早々に了承していただいた。さらに大阪府、兵庫県、京都府の各私立中高連、飛騨市、大阪大淀ロータリークラブ、社団法人関西経済同友会、岐阜新聞および岐阜放送からも同様にご後援をいただいた。

(2) 塾生の募集状況

大阪府、兵庫県、京都府の各教育委員会、並びに各私立中高連のご協力により、大阪府の国・公・私立9校15名、兵庫県の公・私立9校13名、京都府の公・私立9校14名の参加があった。さらに東京都(1校1名)、神奈川県(1校1名)、千葉県(1校2名)、岐阜県(1校1名)、広島県(7校12名)からの高校生の参加を得て、合計59名(男子30名、女子29名)となった。

(3) 協賛金、寄附金の収受について

きらめき未来塾の趣旨にご賛同いただいた法人50社、個人43名の方々から多額の協賛金、寄付金をいただいた。また、現在特定非営利活動法人きらめき未来塾の法人会員21社、個人会員77人であり、これからも会員の勧誘に努めていきたい。

(4) プレスリリースについて

産経新聞、中日新聞、岐阜新聞、スポーツニッポン新聞、保険毎日新聞各紙面に「きらめき未来塾2010」開催記事が掲載された。また、TBSテレビによる取材も行われた。

(5) 事務局打合せ

H21年9月	・開催予定地 飛騨市 現地視察。
11月	・開催地を飛騨に決定 ・開催期間を平成22年8月2日～8月6日の4泊5日に決定 ・塾生の募集人数(東京、広島地区含)を80名以内に決定 ・飛騨市および飛騨市教育委員会の後援を得る
12月	・カリキュラム(案)、講師依頼、スケジュール(案)について検討 ・パンフレット(案)を作成
H22年1月	・会員募集 ・社会人サポーター・学生サポーターの役割、募集について検討
2月	・大阪大淀ロータリークラブ、(社)関西経済同友会へ後援依頼 ・パンフレット発注
3月	・各企業等に協賛、寄付依頼状送付 ・大阪府、兵庫県、京都府の各教育委員会および私立中高連へ後援依頼 ・事務局・サポーター合同説明会の日時・場所の決定
4月	・開催地視察(講義会場、宿泊施設、野外学習等の各候補地) ・社会人サポーターの派遣を数社に依頼開始。 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始
5月	・参加塾生の受付開始
6月	・サポーター確定 ・レクリエーション他担当サポーターとの打合せ ・野外学習について検討 ・サポーターマニュアルの作成
7月	・事務局・サポーター合同説明会開催 ・各講師資料の手配 ・テキスト作成 ・卒塾証書の作成 ・塾生、サポーターへの配付物の作成 ・参加塾生人数集計 ・参加塾生・教育関係者へ案内発送 ・横断幕、記念品(Tシャツ、キーホルダー)の購入 ・テキスト、カリキュラム備品等、最終確認 ・備品等の発送。
9月	・きらめき未来塾2010開催についての総括

12. 事務局総括～反省と来年に向けて



担当が大きいということから、開塾当日に早朝時間での移動としたが準備時間も少ない中での準備は大変だった。飛騨市の職員の方も来てくれていたが、友雪館のエアコンや照明などの準備が全く出来ていない状況の準備作業はかなり厳しいものだった。開塾までの準備にも言えることだが、近畿未来塾時より事務局の人数が減っており、個人の仕事量が多くハードスケジュールになっている。今年も、サポーター2名に事前準備を手伝いに来てもらうということもあった。来年は、先発隊を1名増やし、事務局全体の人員を増やすことを希望する。

バスの乗車や集合については、毎年新大阪駅からの出発にしているのも混乱もなく行うことができた。バス内のレクリエーションは、2台のバスでそれぞれの盛り上がりには差があったようだが概ね好評だった。2台のバス内でレクの内容や時間が違っていたので、内容を統一するためにも詳細なタイムスケジュール作りが必要である。

入塾式は、本年は名誉塾長の講話とオリエンテーションのみであったが、次回からはもっと厳粛にセレモニー的な要素を入れ行うようにし、昨年のように、塾生の宣誓も取り入れたい。

講義については、会場のインターネットの環境が整っていなかったことで映像が流せなかった講義があった。急遽、講義の内容を変更していただき対応していただけたが、会場設備・使用予定になるもの等の確認を徹底しなければならない。更に、全体的なスケジュールの流れを考え、講義の順番を決める必要がある。今回は、講義4で運動を行ったが、前後に他の講義があったので机やイスを動かしたり戻したりするのが大変だった。時間のロスを少なくすることはもちろん、運動着に着替えることにも考慮すべきだろう。

野外学習の実施日についても検討の必要がある。白川郷見学は、教科書で知っていても訪れるのは初めてという塾生がほとんどで、興味を持ち見学していたようだったが、やはり初日の朝から行われたので遊びに行く感覚の塾生がいたり、暑い中での見学で疲れてしまい、午後からは集中力がなくなっていた塾生も見受けられた。このような遠足感覚のカリキュラムは、いくつか講義を終えた後の息抜きもかねて行くようにした方が良いのではないだろうか。今回は、日本文化を学ぶことはグローバル社会で活躍することに繋がるといった内容の講義や英語での講義とリンクしていたので、そういった講義を受けた後での見学であればより効果があったのではないと思われる。

今回取り入れたパネルディスカッションは、事務局内とサポーターから一番好評だった。同じ大学生でも異なった進路を進んでいるサポーターをパネリストにしたため話の内容も様々であった。塾生には自分たちと年齢が近く、また、すぐ訪れる大学への進路の問題は実感と興味を持って聞けたのではないだろうか。



事前に入念な打合せも行ったおかげで、サポーターによる最後のまとめも未来塾の趣旨にも沿ったものになった。是非、今後も継続して加えていきたいプログラムである。



塾生からパネリストへ質問を受ける時間も設けたが時間が十分ではなく、まだありそうな多くの質問に十分に対応しきれなかった感が残った。塾生サイドからは聞きたいことはもっとあったと思うので、次回からは全体の時間を延ばすことも考えたい。

チームミーティングは、今回あまり時間がとることができなかった。しかし、ボディーパーカッションを使った音楽レクやチームフラッグづくりなどチームが協力して行い、協調性やコミュニケーションを高められる内容に出来たのではないだろうか。残念だったのは、チームミーティングを行う場所が、講義会場と同じだったため、講義の準備のために、早くミーティングを終わらせなければならないということがあった。チームミーティングは、未来塾において重要なカリキュラムのひとつであるので、時間はしっかりと確保したい。

チームミーティングの場所の他に、今回の未来塾は会場に関する問題が沢山あった。研修施設と宿泊施設が別ということに加えて、宿泊は3箇所（理事や講師を考えると5箇所）に別れなければならなかった。これは、移動に係る時間のロスや費用の問題はもちろん、男女が分かれて宿泊するためにチームの男女間のコミュニケーションがとりづらかったこと、またサポーター同士・事務局とサポーターの連絡や情報共有にも不便な点が多数あった。幸い、今回は大きな問題は起こらなかったが、安全面、管理面を考えるとやはり全員が一緒に泊れる宿舎であることは必須条件である。宿泊施設が研修会場から離れていることと分宿ということで生じた、塾生の宿泊施設までの送迎や理事や講師の送迎に係った事務局員の負担は、小人数のスタッフには大きいものであった。また、施設に部屋数が少なく、事務局室と講師控室を兼用にしたことがあった。食堂も1箇所では塾生やスタッフ全員が入りきらないため、2箇所に分かれなければならなかった。こういったこともコミュニケーション不足の原因となる。



猛暑の中、昨年より1日多い日程は、スタッフ、塾生共に体力面で大変なこともあったが、幸いにもきらめき未来塾2010は、全日程が天候に恵まれ事故もなく成功裡に終わった。今回の未来塾では、講師の方々、サポーターを始めとして、開催が決まった時から協力して頂いた飛騨市役所の皆様と（株）ねっとかわいの皆様、バーベキューとキャンプファイヤーを大成功させて頂いた大阪緑風観光株式会社の皆様、協賛・ご寄附・ご後援を頂いた、団体・法人・個人の皆様、そしてNPO法人きらめき未来塾の会員の皆様、本当に沢山のご協力があった。このことに感謝申し上げますと共に、反省・検討を生かしていきたい。今年よりさらに良い未来塾にして来年に繋げていきたい。

個人の皆様、そしてNPO法人きらめき未来塾の会員の皆様、本当に沢山の協力があった。このことに感謝申し上げますと共に、反省・検討を生かしていきたい。今年よりさらに良い未来塾にして来年に繋げていきたい。



13. ご協賛・ご協力いただいた法人・団体・個人

〈敬称略 順不動〉

法人・団体

アートコーポレーション株式会社	株式会社京伸	東京海上日動火災保険株式会社
株式会社 RCC 文化センター	国際保険株式会社	内外電機株式会社
株式会社 IAG コーポレーション	株式会社山陰ファミリー保険エージェンシー	株式会社日商エイジェンシー
関西アイエヌエス株式会社	次世代を担う高校生のための未来塾	株式会社ニッソーファミリー
株式会社アイビーエス	株式会社ジャパンファミリー	株式会社日豊社社員一同
アソート株式会社	有限会社信成サービス	ノイエス株式会社
弁護士法人 梅ヶ枝中央法律事務所	株式会社スポーツニッポン新聞社	飛騨市役所
太陽ASG有限責任監査法人	株式会社ゼロム	株式会社ベスト
株式会社エヌアイ	株式会社損害保険ジャパン	株式会社宝清インターナショナル
エムケーサービス株式会社	高麗橋中央法律事務所	北海道ファミリー株式会社
株式会社大阪農林会館	高山ヤクルト販売株式会社	学校法人ミスハリ学園
大阪緑風観光株式会社	中国企業株式会社	ミスハリエステティック専門学校
株式会社大塚製薬工場大阪支店	株式会社中国放送	ミスノ株式会社
九州共栄ファミリー株式会社	有限会社長和	明治乳業株式会社
協和産商株式会社	ツーサン株式会社	森下仁丹株式会社
株式会社キョードー大阪	株式会社ティヴウォーション	株式会社レックスリース

他 記載不可の法人・団体を含む 合計 50 法人・団体

個人

浅井清彦	片岡 聡	新貝寿行	松井秀文	吉澤 健
葭 範夫	河合 努	杉本香世子	松澤一夫	吉澤 恵
有吉浩二	川島俊彦	鈴木規夫	宮内 健	米津加代子
岩元大輔	木下智太	チャールズ・レイク	森 薫生	若杉公一
浮氣利廣	清里威夫	坪井一字	矢島秀勝	若原康正
大石園美	國谷昌賢	外池 徹	柳本品一	和田谷笑子
織田善行	佐土原源	西澤良臣	矢野 巖	
柏崎昇一	清水和文	羽山幸男	山幡一雄	

他 記載不可の方を含む 合計 43 名

平成 22 年 9 月 1 日現在

14. 後援・理事・スタッフ

後援（順不同）

大阪府教育委員会	兵庫県私立中学高等学校連合会
兵庫県教育委員会	大阪私立中学校高等学校連合会
大阪大淀ロータリークラブ	社団法人関西経済同友会
京都府私立中学高等学校連合会	京都府教育委員会
広島県教育委員会	飛騨市教育委員会
飛騨市	岐阜新聞・岐阜放送

理事

理事長	齋藤 洋一（神戸大学名誉教授/社会福祉法人恩賜財団済生会中津医療福祉センター前総長）
副理事長	吉澤 健（塾長）
専務理事	若原 康正（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 代表取締役社長）
理事	大竹 美喜（名誉塾長）（アフラック創業者・最高顧問）
理事	大石 正守（発起人代表）（国際保険株式会社 代表取締役会長）
理事	山田 茂善（太陽 ASG 有限責任監査法人 大阪事務所 代表社員 公認会計士）
理事	山幡 一雄（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 常務取締役/国際保険株式会社 顧問）
理事	前田 嘉昭（大阪教育大学講師/前大阪府立阿倍野高等学校 校長）
理事	下垣 真希（ソプラノ歌手/名城大学大学院多文化共生論講師/名城大学ドイツ語講師）
理事	葎 範夫（株式会社ディヴオーション 代表取締役）
理事	柳本 晶一（アテネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督/アスリートネットワーク理事長）
理事	矢野 厳（矢野 厳税理士事務所 税理士）
理事	西澤 良臣（国際保険株式会社 取締役専務執行役員）
監事	浮氣 利廣（浮氣税理士事務所 税理士）
特別顧問	野田 智義（特定非営利活動法人 ISL 理事長 経営学博士）
特別顧問	朝原 宣治（北京オリンピック 400mリレー銅メダリスト/アスリートネットワーク副理事長）
特別顧問	鈴木 規夫（プロゴルファー 社団法人日本ゴルフツアー機構常任理事）

特定非営利活動法人きらめき未来塾 2010 スタッフ

大阪事務局	次長	舟尾 逸弘
		大崎 剛
		小谷 登
		近藤 由美子
		櫻井 宇多
		塚本 貴一
		向井 俊行
広島事務局	局長	神田 雪子
		新谷 雅司
		山崎 章子
事務局アドバイザー		高橋 道子
		宮原 あけみ
事務局サポーター		津々野 貴文
		西村 和能
		宮城 裕美
サポーター		有川 愛子
		石松 千咲
		板垣 雄大
		岡本 奈那
		久保 裕一朗
		黒田 恵美
		高崎 翔平
		高柳 大介
		長倉 愛
		中村 容子
		藤井 佳代子
		宮地 賢和
		山口 享範
		若杉 昌哉
添乗		永井 貴
写真担当		伴野 國久
ご協力		飛騨市役所職員の皆様 大阪緑風観光飛騨支店の皆様

15. プレスリリース

次世代担う高校生対象に
きらめき未来塾開催へ

代表理事 4泊5日の宿泊研修で、
とす次世 参加費は無料。2005
代を担う高 年に未来塾としてスタート
校生のため した。毎年8月に実施し
の「特定非 ってきたが、昨年11月、大
営利活動法人 きらめき未来塾201
0」(齋藤一理事
長)が8月2日から
6日まで岐阜県飛騨
市の「友雪館」で開
催される。

「の精神を
際という商
ななくてはな
と著者は言
夢と安心感
什組みを長
運営するの
務めた。若
今の仕事の
めに、保険
を考える学
具体的に役
職の一冊と
256頁、
田十税)

きらめき未来塾 2010
8月2～6日
飛騨で宿泊研修

「特定非営利活動法人として開設する」となったものの、昨年(第5回)までの延べ参加高校生・人数は72校・438人。

今年では、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏にちなみ「Never Give Up」(仮題)をテーマとした講演などが行われる予定。

↑2010/7/1 (木)
保険毎日新聞

2010/7/16 (金) →
スポーツニッポン



きらめき未来塾

日本の将来を担うリーダーの育成を目的とした「きらめき未来塾」(発起人・国際保険㈱大石正守代表取締役会長)が8月2日から6日まで岐阜県飛騨市の「友雪館」で開催される。高校生が対象の4泊5日の宿泊研修で参加費は無料。今回の研修では、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏の講演などが予定されている。2005年に「未来塾」としてスタート、大阪府の認証を得て今年から特定非営利活動法人として開設する。昨年までの延べ参加高校生・人数は172校・438人になる。

←2010/7/31 (土)
産経新聞

「きらめき未来塾2010」飛騨市で開催

これからの日本を支えるリーダーを育成しようと、高校生を対象に研修を行う「きらめき未来塾2010」次世代を担う高校生のために、(主催・国際科学振興財団)が、8月2日から6日まで岐阜県飛騨市の友雪館で実施される。この研修事業は、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏を名誉塾長に、国際保険株式会社の大石正守会長らが発起人となり、高校生たちの自己実現の場を提供するもので、今年で6回目の開催。また、今年から「特定非営利活動法人きらめき未来塾」として名実ともにリニューアル。約60人の高校生が参加し、北京オリンピック銅メダリストの朝原宣治氏らの講義や、体験学習などを受講する。

<企画・制作>産経新聞社生活情報センター

←2010/8/3 (火)
岐阜新聞 (県内版)

夢実現へ目標設定を
飛騨市で「きらめき未来塾」開校

スポーツや経済界講師 高校生に成功談語る



「特定非営利活動法人きらめき未来塾2010」(NPO法人)が、8月2日から6日まで岐阜県飛騨市の友雪館で開校した。約60人の高校生が参加し、北京オリンピック銅メダリストの朝原宣治氏らの講義や、体験学習などを受講する。

目的は5年前から毎年と題し講演、夢を語る。講師は、飛騨市河合町の友雪館で開校した。今年、なされるために自己啓発活動の場として、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏にちなみ「Never Give Up」(仮題)をテーマとした講演などが行われる予定。

2010/8/5 (木) →
中日新聞 (岐阜県版)

第一人者熱い講義

飛騨の友雪館で
きらめき未来塾
全国の高校生が受講

各界の第一人者が語り聞かぬ。自分の歳でじくなった少女が羨する高校生向けの身に置き換えて痛みを残した「命」という詩「きらめき未来塾」が、ともに感じる人であったも朗読した。

飛騨市河合町の友雪館で4日、四日、四日は、アチネ、北はフラダンスで名城を歌い上げた。また、一ル日本代表監督など大大学院講師の下垣真希さんが熱いメッセージを送った。

NPO法人きらめき未来塾の主催で、六回目の今回は、関西、関西地方を中心に約60人の高校生が2日から5日間受講している。

下垣さんは、長崎で原爆に被爆し十七歳で亡くなった叔父や、同様に被爆しながらも救済活動に尽力した叔父の恩師永井隆さんの話を紹介。「平和は言



受講生に詩を紹介する下垣真希さん(右)＝飛騨市河合町の友雪館で

きらめき未来塾事務局

〒530-0038 大阪市北区紅梅町 5-25 ジェイ・ケイベル（国際保険株式会社 総務人事部内）

TEL 06-6352-3579 FAX 06-6353-2725

e-mail: info@kiramekimiraijyuku.jp

未来塾へのご感想、ご意見をお待ちしております